

○倉田理恵・小林透・甲斐由美
(九州沖縄農研都城)

【目的】

これまでの研究において、暖地畑作物であるサツマイモ地上部、つまり茎葉は、ビタミン・ミネラル含量が高いだけでなく、非常に多くのポリフェノールを含み、そのポリフェノールの機能性は多岐にわたることから、健康食品等の開発が行われている。しかし、そのまま食べる葉物野菜としては、その水分含量の高さから店頭での鮮度保持が難しく、現状では市販流通が厳しい状態である。私達は企業との共同研究の結果、サツマイモ茎葉由来ポリフェノール抽出工場を新設し、新たな茎葉利用法を創出した。その新事業に伴い、材料であるサツマイモ茎葉の長期供給のニーズが出てきたが、有用な国内での報告が不足している。特に南九州における主要品種での収量は緊急かつ非常に重要な情報であるため、今回その調査を行った。

【材料および方法】

サツマイモは品種‘コガネセンガン’、‘高系 14 号’、‘アヤムラサキ’、‘ムラサキマサリ’、‘タマアカネ’および系統‘九系 05303-3’を供試した。試験は九州沖縄農研都城の無加温のビニールハウスの苗床内、1 品種系統当り 1.5m×1m を 3 反復で行われ、平成 24 年 4 月 3 日に 2~3 節苗を栽培密度 66.7 本/m² で挿苗し、自然光で生育させた。5 月 10 日以降、1 週間毎に 7 節以上に生育した茎

葉を午前 9 時から 10 時の間に収穫した。収穫後の茎葉は、直ちに葉身・葉柄・茎に分けてその生重量を測定し、その後凍結乾燥を行い、乾物重を測定した。気象データはアメダス都城観測地点で測定されたデータを用いた。

【結果および考察】

サツマイモの茎葉は、いずれの品種も 4 月 3 日に挿苗してから 1 ヶ月後の 5 月 10 日より収穫が可能となり、その後 11 月 30 日まで約 7 ヶ月間に渡り 1m² 辺り生重約 500g 以上(乾物重約 50g 以上)を回収することができた。その毎週の品種別収量を図 1 に示す。また、1 週間毎の回収量は品種による多少の差はあるものの、気温に比例し夏季に多く、春秋に少ないことが示された。東南アジアではサツマイモの通年栽培が可能といわれているが、南九州では 7 ヶ月前後程度であることが今回明らかとなった。ただし、加温等をすれば通年栽培も不可能ではないが、その条件についてはさらなる検討が必要である。茎葉生収量の品種系統間については、九系 05303-3 が最も多く、次にムラサキマサリ、すいおう、タマアカネ、高系 14 号そしてコガネセンガンの順であった。その詳細について報告する。

茎葉生収量

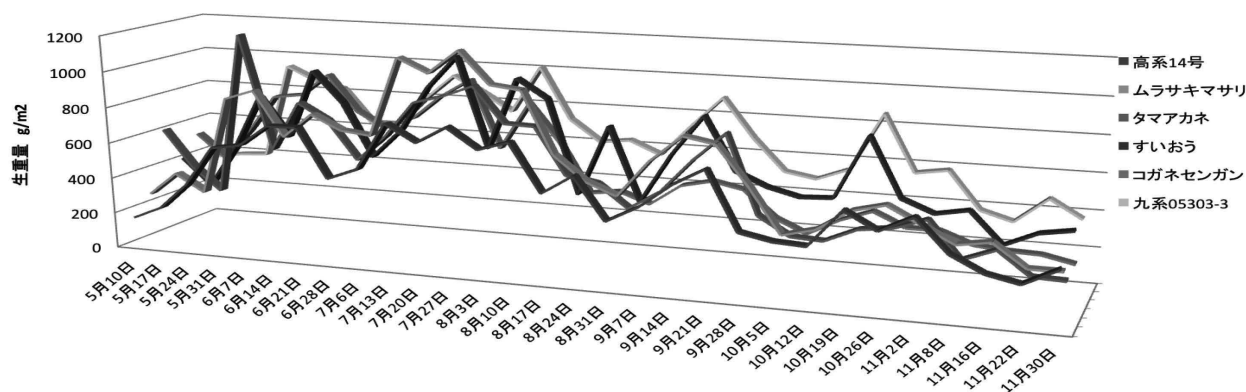


図 1. サツマイモ品種系統における 1 週間毎の茎葉生収量の推移